

高等学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

保 健 体 育

東京都教職員研修センター

目 次

I 主題設定の理由及び研究計画		
1	主題設定の理由	2
2	研究計画	2
II 研究内容		
1	研究仮説の設定	3
2	研究経過	3
3	研究構想図	4
4	実践報告	5
	(1) 体育分科会	5
	(2) 保健分科会	1 5
III 研究成果と今後の課題		
1	研究成果	2 4
2	今後の課題	2 4

研究主題：生徒同士のかかわりを通して、一人一人の意欲を高める

個に応じた学習指導の工夫

I 主題設定の理由及び研究計画

1 研究設定の理由

近年は「健康ブーム」という言葉が表すように、社会的に健康への関心が高まる中、保健体育は、生徒の心と体の両方にかかわることのできる唯一の教科であり、将来、生徒が自ら健康的な生活を選択する上で影響が大きい。しかし一方で、運動嫌い、健康に興味がない生徒が増加し、文部科学省は「昭和60年頃から子どもの体力・運動能力の低下傾向にあり、肥満など生活習慣病の増加は社会的に深刻な問題である」と指摘している。このような社会背景の中で以前は遊びや運動の中で培ってきた仲間とのコミュニケーション能力が、テレビゲームの普及による一人遊びの傾向や運動場の減少、携帯電話の普及などの社会変化により、低下したと言われている。授業の中でも、グループがうまく作れない、ディスカッションが苦手、という生徒が増加したと感ずることがある。このようなコミュニケーション能力の低下が、集団の中で個々の能力を発揮させることを阻害し、その結果、意欲的に授業へ取り組むことを難しくしているのではないかと考えた。

そこで本研究会では、生徒同士のかかわりを大切に、多様な生徒が共に意欲的に取り組める授業を目指した。授業中での「意欲」とは、教師から与えられるものではなく、生徒が活動する中で自然と湧き出てくるものでなくてはならない。意欲が湧き出てくるような授業とは、仲間のアドバイスや教師の支援を受けながら、自己の能力に合った課題を発見し、自ら解決することによって達成感や喜びを感じられるような授業であると考え、教師の適切な支援を受け、生徒同士が積極的にコミュニケーションを図りながら、相互理解を通して、個々の能力に応じた課題を発見し、適切な相互評価ができれば、自らの課題を意欲的に解決できると考え、主題を設定した。

2 研究計画

ア	研究主題、研究計画、研究構想の検討及び決定	5月
イ	研究仮説の設定、生徒・教員向けアンケート作成	6～7月
ウ	アンケートの実施、集計、分析	7月
エ	研究計画の再確認、理論の構築、実証授業計画	8月～9月
オ	実証授業、仮説の検証	9～10月
カ	実証授業の分析	11月
キ	研究のまとめ、研究報告書の作成、発表原稿作成	12月～1月
	研究報告書完成、発表原稿の検討、プレゼン用資料の検討	
ク	研究発表	2月

II 研究内容

1 研究仮説の設定

本研究部会が目指す授業は、生徒が互いにかかわり合う中で、認め合い、励まし合い、アドバイスし合い、意見を交換し合うなど、生徒が相互に評価する中で、一人一人が個々の課題を発見し、意欲をもって学習活動に取り組み、自らその課題を解決できるようになる授業である。

最近の生徒は、自己中心的であったり、人とのコミュニケーションが苦手であったりする傾向がある。授業においても、教師から指導される場面が多く、生徒同士が「かかわり」を通して自他の課題について考える活動が少ない。また、知識はあっても、自他の課題を見付けたり、適切な解決方法を見出す能力が不足している。

そこで本研究部会では、各学校における授業の実態を調査するとともに、「生徒同士のかかわり」を中核に据え、それを通して意欲的に課題を解決できる力を育成することをねらいとした。そのため、授業を構成する上で

- ①一時間の授業の中に必ず生徒同士がかかわりをもつ場面を設定する。
- ②かかわりを有効にするための教師の支援を大切にする。
- ③ワークシートを使い、生徒同士の相互評価を踏まえて自己評価をする。

といった工夫を行うとともに、課題の解決策や次回の目標を明確にした。

この工夫が生徒の意欲の向上につながり、結果的には、保健体育の目標である「生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や態度を養い、健康の保持・増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」ことにつながると考えた。

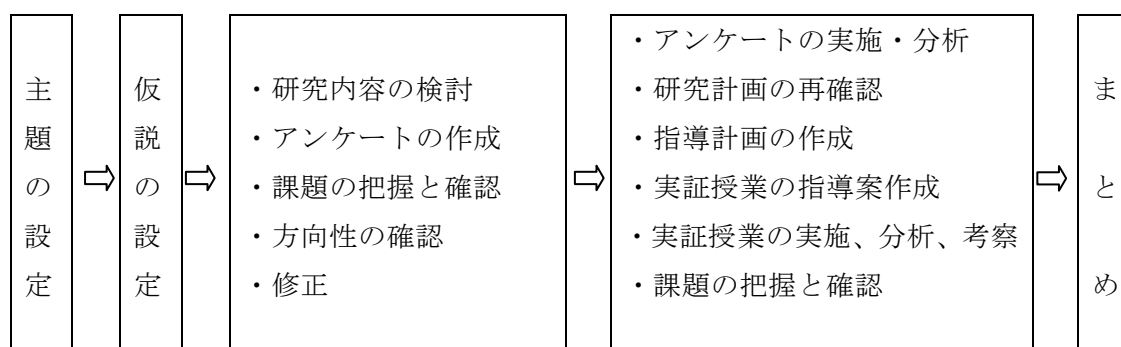
以上の理由から次の仮説を設定した。

《仮 説》

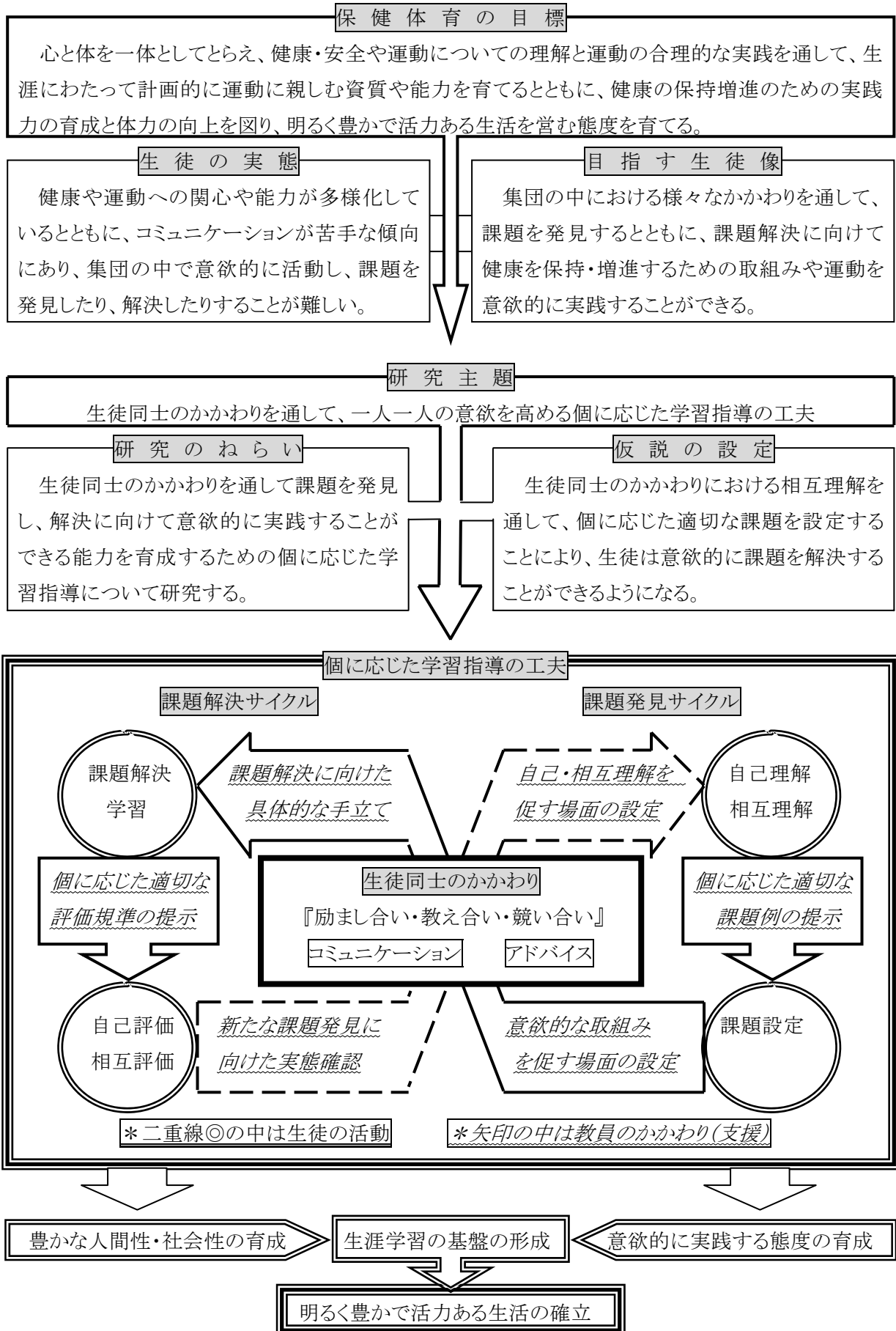
生徒同士のかかわりにおける相互理解を通して、個に応じた適切な課題を設定することにより、生徒は意欲的に課題を解決することができるようになる。

2 研究経過

本研究における1年間の研究経過はおおよそ次のとおりである。



3 研究構想図



4 実践報告

(1) 体育分科会

ア 研究の方法

- (ア) 仮説を設定し、単元計画の作成と評価規準の設定を行う。
- (イ) 教員、生徒に対して体育の授業に関するアンケート調査を実施し、結果の分析・考察を行う。
- (ウ) 実証授業を実施する。
- (エ) 実証授業の前後に生徒に対してアンケート調査を実施し、意識の変化を調査する。
- (オ) 仮説の検証を行う。

イ 体育の授業に関するアンケート調査の実施

- (ア) 調査期間 平成17年7月
- (イ) 調査対象
 - ・東京都立高等学校27校 保健体育科教員70名
 - ・東京都立高等学校26校 生徒2,978名
- (ウ) 調査項目

生徒向けアンケート

質問1	あなたは、体育が好きですか。
質問2	あなたは、体育の授業に意欲的に取り組んでいますか。
質問3	あなたは、体育の授業で運動の楽しさや喜びを味わっていますか。
質問4	体育の授業で、あなたの意欲に影響することはどのようなことですか。
	①自分の体力・運動能力
	②仲間の体力・運動能力
	③チーム・グループの仲間
	④授業の雰囲気
質問5	あなたは、自分の能力に応じた課題を自分自身で設定することができますか。
質問6	あなたは、運動を楽しむためには、他の生徒とのかかわりが重要だと思いますか。
質問7	あなたは、仲間と積極的にかかわり、協力しあって体育の授業に参加していますか。
質問8	あなたは、体育の授業で、他の生徒の体や心の状態を考えて活動していますか。
質問9	あなたは、体育の授業で、仲間からアドバイスを受けたことがありますか。
質問10	仲間からのアドバイスは、あなたの課題解決の手がかりになると感じますか。
質問11	あなたは、体育の授業で仲間にアドバイスをしたことがありますか。
質問12	あなたのアドバイスによって仲間が上達した時に、達成感や喜びを感じたことがありますか。

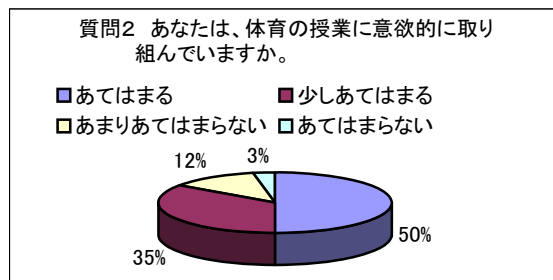
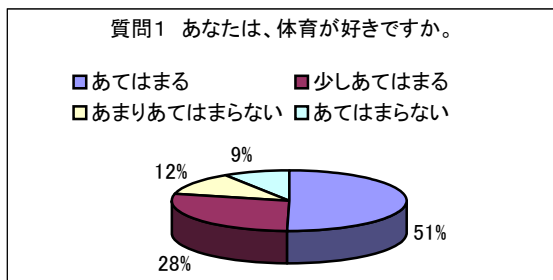
教員向けアンケート

質問1	生徒は、体育が好きですか。
質問2	生徒は、体育の授業に意欲的に取り組んでいますか。
質問3	生徒は、体育の授業で運動の楽しさや喜びを味わっていますか。
質問4	体育の授業で、生徒の意欲に影響することはどのようなことですか。
	①自分の体力・運動能力
	②仲間の体力・運動能力
	③チーム・グループの仲間
	④授業の雰囲気
質問5	生徒は、自分の能力に応じた課題を自分自身で設定することができますか。
質問6	生徒が運動を楽しむためには、生徒同士のかかわりが重要だと思いますか。
質問7	生徒は、仲間と積極的にかかわり、協力しあって体育の授業に参加していますか。
質問8	生徒は、体育の授業で、他の生徒の体や心の状態を考えて活動していると感じますか。
質問9	生徒は、仲間からアドバイスを受けていますか。
質問10	生徒から生徒へのアドバイスは、生徒の課題解決の手がかりになると感じますか。
質問11	仲間にアドバイスをした生徒は、それによって仲間が上達した時に達成感や喜びを感じていると感じますか。

ウ 分析・考察

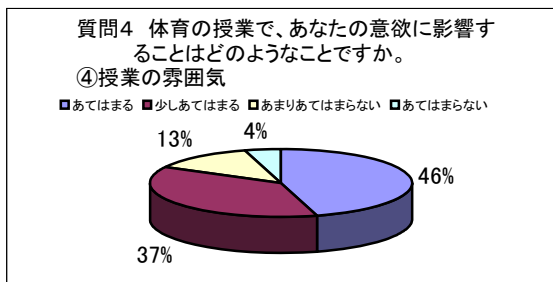
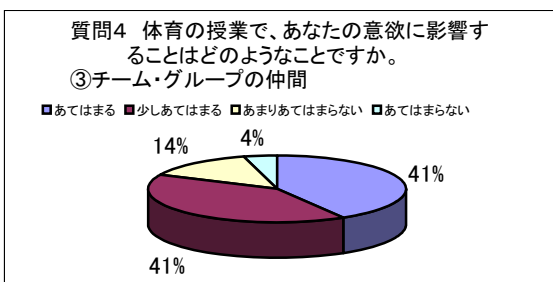
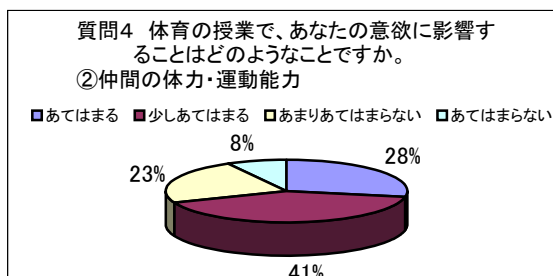
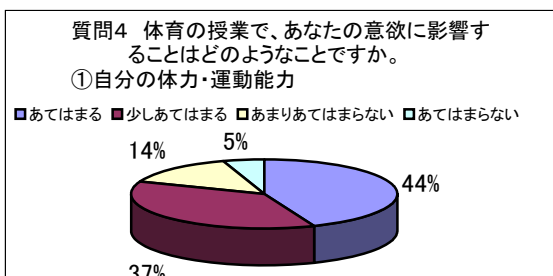
(ア) 生徒の関心・意欲・態度について（生徒向け 質問1、質問2、質問3）

「体育が好きですか」では79%、「授業に意欲的に取り組んでいますか」では85%、「授業で運動の楽しさや喜びを味わっていますか」では81%の生徒が「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した。全体の傾向としては、体育の授業に対する関心・意欲・態度については高いが、約20%の生徒は体育を好きではないという傾向を示した。



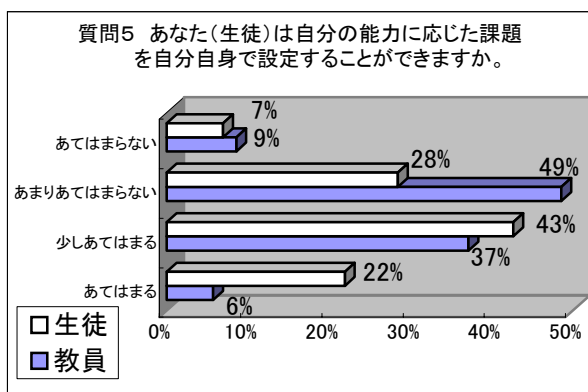
(イ) 授業への意欲に影響する要因について（生徒向け 質問4）

「体育の授業で意欲に影響することはどのようなことですか」では、「②仲間の体力・運動能力」の項目で28%が「あてはまる」と回答した。「①自分の体力・運動能力」「③チーム・グループの仲間」「④授業の雰囲気」の各項目では、40%以上が「あてはまる」と回答した。これは、授業に対する意欲にかかわる要因としては、仲間の体力・運動能力より仲間とのかかわりがやや強く影響していると考えられる。



(ウ) 生徒による課題設定について（生徒向け 質問5、教員向け 質問5）

「あなたは、自分の能力に応じた課題を自分自身で設定することができますか」では、

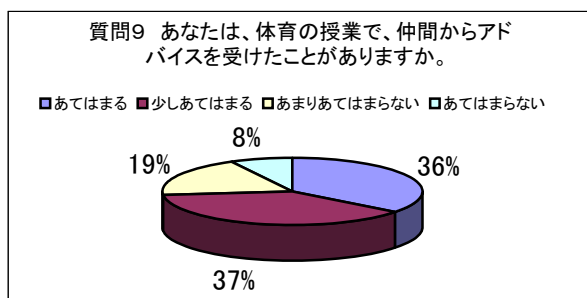
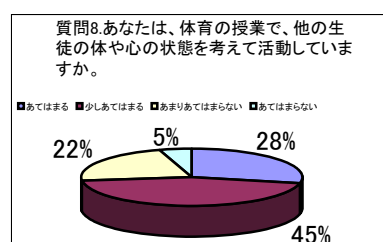
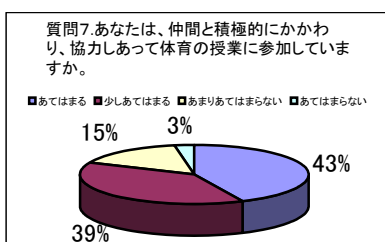
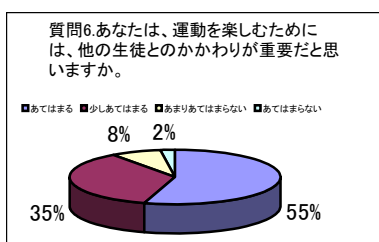


「あてはまる」で22%、「少しあてはまる」で43%の生徒が回答した。しかし、「生徒は、自分の能力に応じた課題を自分自身で設定することができますか」では、「あてはまらない」で9%、「あまりあてはまらない」で49%の教員が回答した。これは、生徒と教員の間で、「自己の能力に応じた、適切な課題設定の仕方」に対する両者の理解の差が出たものと考えられる。生徒が自己の

課題を適切に把握できるような支援が必要と考えられる。

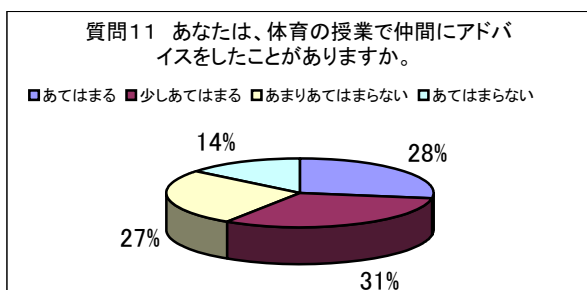
(エ) 体育の授業でのかかわりについて (生徒向け 質問6、質問7、質問8)

「運動を楽しむためには、他の生徒とのかかわりが重要だと思いますか」では、「あてはまる」で55%の生徒が回答し、「仲間と積極的にかかわり、協力しあって授業に参加していますか」では「あてはまる」で43%の生徒が回答した。このことから、約半数の生徒は、運動を楽しむためにはかかわりが重要だと感じており、体育の授業においても仲間と積極的にかかわろうとする姿勢がうかがえた。しかし、「他の生徒の体や心の状態を考えて活動していますか」では、「あてはまる」で28%の生徒が回答したにとどまり、相手の体と心の状態を考えた活動については意識が薄い傾向が示された。



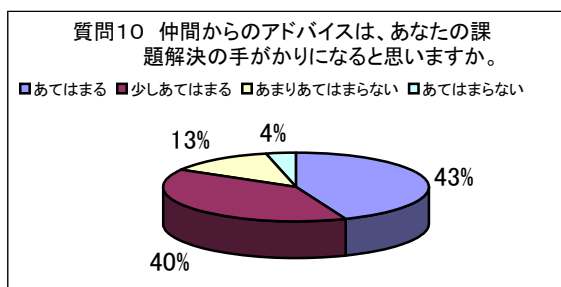
(オ) 体育の授業でのアドバイスについて (生徒向け 質問9、質問11)

「授業で、仲間からアドバイスを受けたことがありますか」では、「あてはまる」で36%、「少しあてはまる」で37%の生徒が回答した。しかし、授業で仲間にアドバイスをしたことがありますか」では、「あてはまる」で28%、「少しあてはまる」で31%の生徒が回答し、アドバイスを受ける生徒よりアドバ

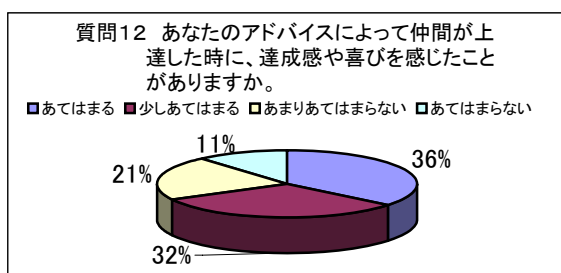


イスをしたという生徒がやや少なくなる傾向を示した。

(カ) 生徒間のアドバイスによる影響（生徒向け 質問10、質問12）



「仲間からのアドバイスは、あなたの課題解決の手がかりになると感じますか」では、83%の生徒が「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した。多くの生徒は、仲間からアドバイスを受けることで、自分自身の課題解決の手がかりになると考えている。



また、「アドバイスによって仲間が上達した時に、達成感や喜びを感じたことがありますか」では、68%の生徒が「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した。アドバイスをすることのかかわりをもった経験のある生徒は、仲間の上達する様子やそれにいたる過程を共有することで達成感や喜びを得ている傾向があると考えられる。

エ 調査結果からのまとめ

- (ア) 体育の授業に対して意欲的に取り組む生徒が多く、仲間とのかかわりが運動の楽しさや喜びを味わう要因であると実感している生徒が多い。
- (イ) アドバイスを自ら進んで行う生徒は少ない傾向を示した。しかし、他生徒からのアドバイスが自身の課題解決の手がかりになると考えている生徒も多い傾向を示しており、生徒同士が積極的にアドバイスを行うなど、かかわりがもてる授業の工夫が必要である。
- (ウ) アドバイスをすることのかかわりをもった経験のある生徒は、仲間の上達する様子やそれに至る過程を共有することで達成感を得ている傾向があると考えられる。
- (エ) 生徒は運動を楽しむためには、かかわりが重要だと考えており、体育の授業においても積極的にかかわろうとする傾向をみることができた。しかし、相手の心と体の状態を考えての活動については苦手な傾向が示され、相手の心身の状態を考えた適切なかかわりができるような授業の工夫が必要である。

以上から体育分科会では、生徒がかかわりを通して、自分や仲間の学習の実現状況をより高めようとする意欲をもって、課題発見および課題解決に取り組めるような授業の工夫と、それに対しての教師の支援の工夫に着目した。これらを踏まえて、個に応じた指導の一層の充実を図り、実証授業を行い、仮説について検証する。

オ 実証授業

(ア) 実証授業のねらい

生徒同士がかかわる授業の工夫と、教師の支援の工夫をすることで、生徒が自分や仲間の学習の実現状況をより高めようとする意欲をもって、個に応じた課題発見および課題解決に取り組めるような授業を展開する。

(イ) 実証授業の特徴

個に応じた指導のより一層の充実に視点をおき、以下の活動を生徒の学習活動に設定し、実証授業を行い仮説について検証した。

- ① [かかわり] 自分やグループの仲間の課題発見や課題解決を協力して行わせる活動。学習活動を通して仲間と積極的にかかわることで、公正、協力、責任などの態度を育てるとともに、適切に課題を発見する能力、よりよい課題の解決方法を発見する能力の向上を図る。
- ② [競い合い] ゲームやスキルテストを通して課題発見、課題解決方法の発見を促す活動。また、意欲的に授業に取り組めるような雰囲気作りやコミュニケーションの活性化を促し、運動の楽しさや喜びを味わわせる。

(ウ) 授業における工夫

第1学年(178名)を対象に、学習单元「バスケットボール」について8時間の実証授業を計画し、研究主題に沿って実践した。

①グループ編成の方法

1時間目に、スキルテスト(パス～キャッチ～レイアップシュート～リバウンドを30秒間に何回試投し、何回成功できたか)と無作為に抽出したメンバーによるゲームを実施した。その後、数値化したスキルテストの結果とゲームでの様子をもとに生徒がもっている能力、技能、学習意欲を総合的に判断してグループを編成した。

②導入部分における「体ほぐしの運動」の趣旨を生かした運動の実施

「かかわり」をスムーズにするために「体ほぐしの運動」の趣旨を生かした運動を設定し、生徒同士が積極的にかかわる授業を展開するためのきっかけ作りを行った。「体ほぐしの運動」のねらいである、気付き・調整・交流を通して自分や互いの体調を気遣うことや、様々なコミュニケーションを行うことで「心ほぐし」にもつながった。このことにより授業の導入を円滑に行うことができた。



(「体ほぐしの運動」の趣旨を生かした運動の例：ダブルキャッチボール)

③多様なかかわりの導入

- ・生徒同士の「かかわり」に重点を置いた学習活動

シュートフォームを互いにチェックし合うことや、プレーがうまくいかなかったときの失敗の原

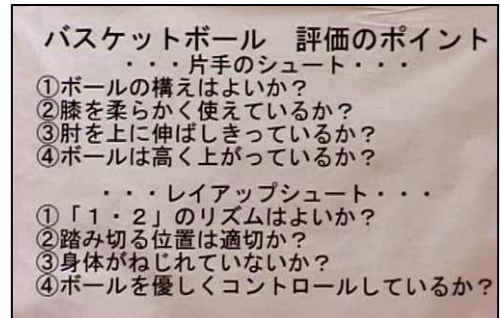


(かかわりの例：マークOK!)

因を指摘し合うなどして、とにかく1つのプレーごとにみんなで声を掛け合うような学習活動を工夫した。

・「評価のポイント」の作成

何の参考資料もなしに生徒同士でアドバイスをし合うことは非常に困難なので、教師側から毎時間「評価のポイント」を提示した。各時間のねらいや、予想される失敗例などをあらかじめ示すことによって、例えば自分が同じ失敗をする可能性があっても、他人にも指摘してあげられるよう工夫した。「評価のポイント」を生徒が活動しながら見える位置に掲示し、次の時間も前の復習をしたときにも活用できるようにした。さらにそれを見ながら「評価シート」(後述)を使用して相互評価ができるように作成した。



(評価のポイントの例：シュート)

④「競い合い」の導入

生徒の授業に取り組む意欲を向上させ、アドバイスなどを通してコミュニケーションの活性化を促し、良好な授業の雰囲気をつくるために毎時間の授業に「競い合い」を取り入れた。グループ内での競い合いでは、個人の課題発見をさせ課題解決に向けた活動を促す場面とした。グループ同士の競い合いでは、グループの課題発見をさせる場面、仲間と協力して取り組ませることにかかわりを深めさせる場面、他のグループと競い合うことで仲間意識を深め、授業に取り組む意欲を高めさせた。



(競い合いの例：ハーフコート3対2で決められた時間内に何ゴール決められるか、ディフェンスは何回ミスを誘えるか)

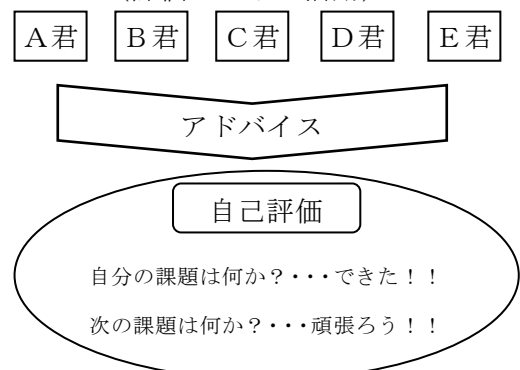
⑤「評価シート」の活用

自分の課題を発見し、解決方法を考えさせるために「評価シート」を活用した。評価シートには自己評価、相互評価の欄を設け、教師から提示された授業のねらい、評価のポイントをもとに活動を行った後、授業のまとめの時間に記入をさせた。そのことで生徒は、自分の課題発見と課題解決策の発見を単元を通して継続して行うことができた。また、仲間の課題を把握することを通して、課題発見、課題解決にいたる活動を協力して行わせた。



(評価シートへ記入)

(評価シートの活用)



(エ)「評価シート」の記入例

回	日付	⑤	月	日		
わらい		・集団的技能の基本的な動きを理解する ・オールコートでの攻防を行う				
相互評価	氏名	声かけしたか	④	3	2	1
	C君から	チームの役割	④	3	2	1
		一言アドバイス	シュート上手だった!			
	氏名	声かけしたか	4	③	2	1
	D君から	チームの役割	④	3	2	1
		一言アドバイス	もっとボールをもらいにきなさいよ!			
	氏名	声かけしたか	4	③	2	1
E君から	チームの役割	4	③	2	1	
	一言アドバイス	もっとドリブルしよう				
氏名	声かけしたか	4	③	2	1	
F君から	チームの役割	4	③	2	1	
	一言アドバイス	いい動きかできていた。				
氏名	声かけしたか	4	③	2	1	
G君から	チームの役割	4	③	2	1	
	一言アドバイス	積極的にきなさい。				
自己評価		声かけしたか	4	3	②	1
		チームの役割	4	③	2	1
		課題解決策	ボールに当たらず、よくパスを回す。			
	次回の課題	パスのスピードを上げる。				
担当教員から一言	早くドリブルにも意識してほしい。					

アドバイスを
もらうことの
多いA君

日	⑤	月	日		
すが	・集団的技能の基本的な動きを理解する ・オールコートでの攻防を行う				
1	声かけしたか	④	3	2	1
1	チームの役割	④	3	2	1
	一言アドバイス	おい、声をかけて早くともやりなさいよ。			
1	声かけしたか	④	3	2	1
1	チームの役割	④	3	2	1
	一言アドバイス	4-4の中へいって来た。			
1	声かけしたか	4	3	2	1
1	チームの役割	4	3	2	1
	一言アドバイス	アタック。			
1	声かけしたか	④	3	2	1
1	チームの役割	④	3	2	1
	一言アドバイス	いいアドバイスをして、中に入ってきた。			
1	声かけしたか	④	3	2	1
1	チームの役割	④	3	2	1
	一言アドバイス	いいアドバイスもあって、守りがしっかりしてる。			
1	声かけしたか	4	③	2	1
1	チームの役割	4	③	2	1
	課題解決策	仲間にしっかり指示できなかった。			
	次回の課題	仲間に良いパスを！ 仲間に良いパスを！			
担当教員から一言	早くドリブルにも意識してほしい。 リバウンド - 走る人 - 相手のパスを				

アドバイスを
あげることの
多いB君

時 間	ねらい	学習活動	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
1時間目	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目標を知る バスケットボールの競技の特性を知る 評価シートの記入の仕方を知る 自分の技能の程度を知る 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション スキルテスト1回目 ゲーム グループ分け 	バスケットボールの特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わおうとしている。(観察)			バスケットボールの競技としての特性を理解している。(観察)
2時間目	<ul style="list-style-type: none"> 個人的な技術の習得 正しいフォームを覚える 	<ul style="list-style-type: none"> シュート ドリブル 1対1 	安全に留意して練習に取り組もうとしている。(観察)		<ul style="list-style-type: none"> 正しいフォームで正確なシュートが打てる。 顔を上げて目的の場所までドリブルをすることができる。(観察) 	
3時間目	<ul style="list-style-type: none"> 相手ディフェンスを判断してかわし、パスができる。 	2対1の攻防	練習で、お互いのよいところをアドバイスし合い、仲間に働きかけるなどし、協力している。(観察)	自分の能力にあった適切な課題を設定している。(評価シート)		
4時間目	<ul style="list-style-type: none"> コート全体を見て、空いているスペースを利用したプレーができる。 リターン・パスのシュートができる。 	3対2の攻め方 スキルテスト2回目		スキルテストから、チームと自分の適切な課題と、その解決方法を見付けている。(観察・評価シート)	練習やゲームで、スクリーン、リターン・パスなど攻撃体系の動きが適切にできる。(観察)	
5時間目	<ul style="list-style-type: none"> 集団的の技能の基本的な動きを理解する オールコートでの攻防を行う 	3対3 (オールコート)	相互評価や自己評価を基に自ら進んで練習に取り組もうとしている。(観察)		オールコートでオフェンスとディフェンスの両方を切り替えて行うことができる。(観察)	攻防に必要な集団的技術について、具体例をあげたり書いたりしている。(評価シート)
6時間目	<ul style="list-style-type: none"> マン・ツー・マンディフェンスを理解する リバウンドの技術を身に付ける 	4対4 (ハーフコート) リバウンドからのシュート		自分の課題を解決するための具体的な方法を判断している。(観察)	マン・ツー・マンディフェンスで自分のマークマンを責任もって守ることができる。(観察)	
7時間目	<ul style="list-style-type: none"> ゲームを楽しめるようになる。 ルールや審判法を理解する。 	5対5のゲーム (リーグ戦形式) スキルテスト3回目	チームにおける自分の役割を自覚して責任を果たしたり、教え合ったりして互いに協力しながら進んでゲームに参加しようとしている。(観察)			ゲームの運営方法やルールおよび審判方法を知っている。(観察)
8時間目		5対5のゲーム (リーグ戦形式)		ゲーム結果からチームや自分の新たな課題を見付け、作戦を立てている。(観察)	今もっている技能を發揮してゲームを行うことができる。(観察)	

(カ) 実証授業の指導事例

本時の学習指導案(全8時間中の第4時)			
本時の目標		全体を見渡して、広いスペースを利用したプレーができる。 リターン・パスのシュートができる。	
	学習活動	教師の支援	評価規準 評価方法
導入 10分	<ol style="list-style-type: none"> あいさつ 本時の説明 評価シートに本時の課題と目標を記入する。 準備運動 「体ほぐしの運動」の趣旨を生かした運動 <ul style="list-style-type: none"> ダブルキャッチボールⅡ 二人一組でそれぞれがボールを持ち、真上へ同時に投げて、キャッチをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 出欠の確認をし、生徒の体調を観察する。 本時の内容を説明し、その中から個人の課題が見付けられるように助言する。 十分な運動が確保できるよう配慮する。 周囲とのスペースの確保に注意を促す。 相手が受け取りやすい位置、球速を考えさせる。 	
展開 35分	<ol style="list-style-type: none"> グループごとに前時の復習を行う。(7分) <ul style="list-style-type: none"> シュート、ドリブル、2対1の攻防の練習をグループで行う。 生徒同士で助言しあい、適切な運動ができるよう協力する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> かかわり1 ・2対1の攻防のポイントをもとに、空いているスペースの指示など、上半身をつかった大きなジェスチャーで教えあう。 </div> 3対2の攻防の説明を聞き、練習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 各自のプレーのよい点、努力を要する点を分析し、課題を見つけて練習を進める。(20分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ポイント ・スクリーン等を用いてオフェンスがノーマークの状態を作る。 ・リターン・パスのシュートを行う。 ・プレッシャーが少ないプレーヤーがシュートする。 </div> 3対2の攻防のポイントをもとに <ol style="list-style-type: none"> ①ポジション、リターン・パス時の広いスペースの使い方についてホワイトボードを用いて確認し、課題を見付ける。 ②リターン・パスをアイコンタクトや発声しながらのジェスチャーで味方呼び込む。 スキルテスト(ハーフコート3対2)を行う。(8分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 競い合い ・得点、リバウンド、インターセプトでプレーヤーの入れ替え。一巡したら攻守交代をする。 ・テストを終えたグループは、個人とチームの課題が解決できたか話し合う。 </div> 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の反省をもとに、個人やグループの実態にあった内容を確認させ、練習を行うように促す。 3対2の攻防について実演を交えて説明をし、各グループで練習させる。 ボールを呼び込むときのジェスチャーができているか生徒同士で確認させる。 プレーのポイントについて実演を交えて説明し、理解させる。 生徒が正しく課題を設定できているか、巡回して指導する。 リターン・パスの説明時に相手の動きなども考えさせるような質問等を加えて、話し合いを持たせる。 発声して両方の手を振るなどの味方の呼び込み方や、アイコンタクトの取り方の説明をして、広いスペースの使い方を理解させる。 スキルテストの説明を行う。 ゲーム終了ごとにグループ内で各自のプレーのよい点、努力を要する点を分析し、コート内での動きを交えさせて説明し、課題解決につなげさせる。 シュートを放つまで攻撃できるように、グループで声かけなど応援をするように促す。 	<p>(技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習で獲得したリターン・パスからのシュート、スクリーンなどの攻撃体系の動きが適切にできている。〔観察〕 <p>(思考・判断)</p> <ul style="list-style-type: none"> スキルテストから、チームと自分の適切な課題と、その解決方法を見付けている。〔観察・評価シート〕
まとめ 5分	<ol style="list-style-type: none"> 整理運動 本時のまとめと次時の説明 グループごとに本時の相互評価と自己評価を記入する。 あいさつ、片付け 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の課題について、生徒同士が適切に評価し合うように促す。 ケガや体調についての確認をする。 	

カ 実証授業の結果と考察

仮説を実証するため、実証授業の事前と事後に生徒へ意識調査のアンケートを実施した。

質問項目および調査結果と考察は以下のとおりである。

(ア) 調査期間：平成17年9月（実証授業前）、10月（実証授業後）

(イ) 調査対象：都立高等学校 1校 178名

事前調査

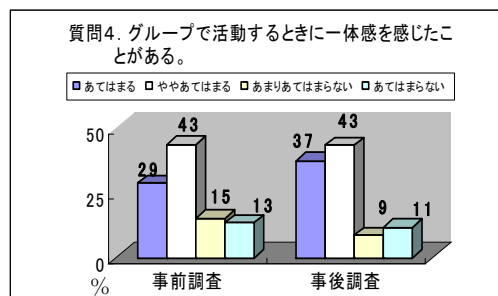
質問1	仲間とかかわる機会が多い授業は意欲的に取り組める。
質問2	仲間のアドバイスが自分の課題解決に役立っている。
質問3	仲間に対して思ったことや気付いたことを授業中に伝えることができる。
質問4	グループで活動するとき一体感を感じたことがある。
質問5	自分やチームの課題解決のための方法が理解できている。

事後調査

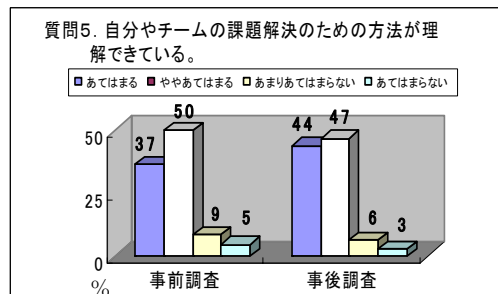
質問1	仲間とかかわる機会が多い授業は意欲的に取り組めた。
質問2	仲間のアドバイスが自分の課題解決に役立った。
質問3	仲間に対して思ったことや気付いたことを授業中に伝えることができた。
質問4	グループで活動するとき一体感を感じるようになった。
質問5	自分やチームの課題解決のための方法が理解できた。

(ウ) 事前調査と事後調査の結果（抜粋）

① 質問4では、「あてはまる」と回答した生徒は29%から37%と増加した。これは、習熟度の異なる生徒同士のグループ編成においても、かかわりを通して、自分の役割ややるべきことを理解できたと考えられる。また、そのことで良好な人間関係や学習の雰囲気作りが形成されたと考えられる。



② 質問5では、「あてはまる」と回答した生徒が37%から44%と増加した。「かかわり」、「競い合い」、「評価シート」を通して仲間とアドバイスや情報交換をしたことで、生徒自身及びチームの課題発見が行え、解決に向けた活動が促されたと考えられる。



(エ) まとめ

今回の研究では、生徒同士がかかわる授業の工夫と、それに対しての教師の支援の工夫をすることで、生徒が自分や仲間の学習習熟の程度をより高めようとする意欲をもって、取り組めるような授業について検証した。そのために、「かかわり」、「競い合い」、「評価シート」といったツールを活用して個に応じた指導の一層の充実を図ることに重点をおいた。

実証授業の主な成果としては、授業中では仲間へアドバイスすることができなかった生徒が、「評価シート」ではアドバイスができていたり、また生徒一人一人の課題をグループ内で相互理解をすることで、課題解決に向けてグループとして一体感を持って活動することができたことであった。

このことから、生徒同士がかかわる個に応じた指導の工夫をすることで、生徒同士が仲間と協力して課題解決に向けて意欲的に活動し、運動の楽しさや喜びを味わうことができたと考えられる。

(2) 保健分科会

ア 研究の方法

- (ア) 単元計画の作成と評価規準および仮説の設定を行う。
- (イ) 生徒に対してアンケート調査を実施し、結果の分析、考察を行う。
- (ウ) 実証授業を実施する。
- (エ) 単元の後に生徒に対してアンケート調査を実施し、生徒意識の変化を調査する。
- (オ) 仮説を検証する。

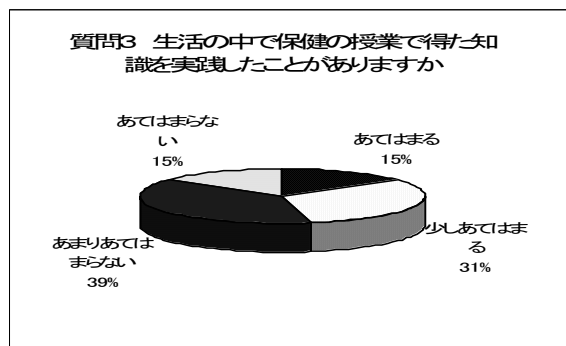
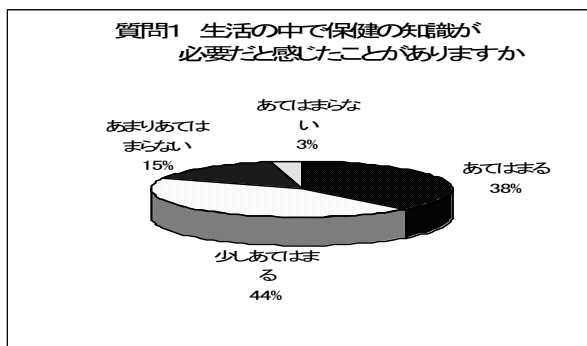
イ 保健の授業に関するアンケート調査

- (ア) 調査期間 平成17年7月
- (イ) 調査対象 東京都立高等学校28校 生徒2,368名
- (ウ) 調査内容 保健の授業に関する意識調査
- (エ) 調査項目

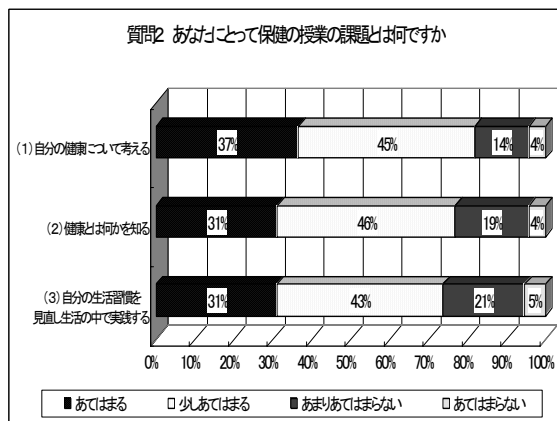
質問1	生活の中で保健の知識が必要だと感じたことがありますか
質問2	あなたにとって保健の授業の課題とは何ですか
	(1) 自分の健康について考える
	(2) 健康とは何か知る
	(3) 自分の生活習慣を見直し、生活の中で実践する
質問3	生活の中で保健の授業で得た知識を実践したことがありますか
質問4	あなたは、友達のアドバイスや意見を取り入れて課題を解決していますか
質問5	あなたは、先生のアドバイスや意見を取り入れて課題を解決していますか
質問6	あなたは、グループ学習の時に、仲間と協力して課題を解決しようとしていますか
質問7	あなたは、どんな保健の授業の時に意欲が高まりますか
	(1) 興味のある内容だった時
	(2) 授業が面白かった時
	(3) 先生から新しい知識をたくさん教えてもらった時
	(4) 友達と協力して、あるテーマを調べまわっていく時
	(5) 体験をともなう授業の時
質問8	あなたは、グループ学習の時に、どんなグループだと意欲が高まりますか
	(1) 仲の良い友達と勉強する時
	(2) 自分と同じ分野に興味のある友達と勉強する時
	(3) 自分より保健を得意とする友達と勉強する時
	(4) 男女別のグループの時
	(5) 男女混合のグループの時

ウ 分析・考察

- (ア) 生徒の保健の授業に関する意識調査（質問1、質問2、質問3）



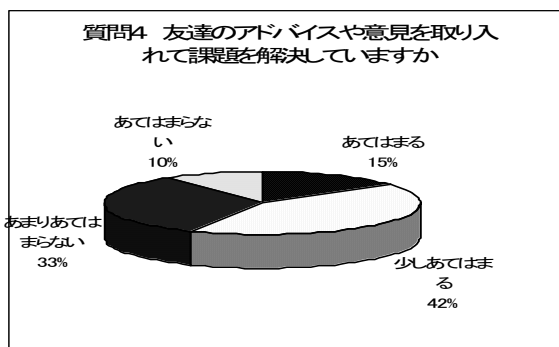
質問1と質問3からは「保健の知識」の必要性を感じているが、それを実践できていないことがわかる。保健の授業では「保健」の知識・理解にとどまらず、「実践力」を育成することが重要である。そのため、より実践力を高めるような授業の工夫が必要であると考えられる。



質問2の保健の授業の課題について、「自分の健康について考える」に「あてはまる」と回答した生徒よりも「健康とは何かを知る」「自分の生活習慣を見直し生活の中で実践する」に「あてはまる」と回答した生徒が少なくなっている。特に「実践することまでが課題である」と捉えていない生徒の割合が高い。このことから「実践力」を育成するためには、保健の授業における課題が「実践力の育成」にあることを、生徒に理解させることが必要であると考えられる。

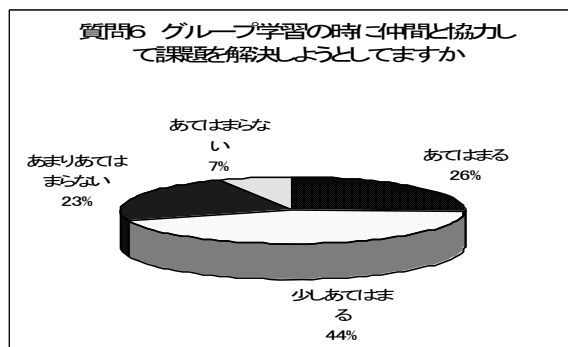
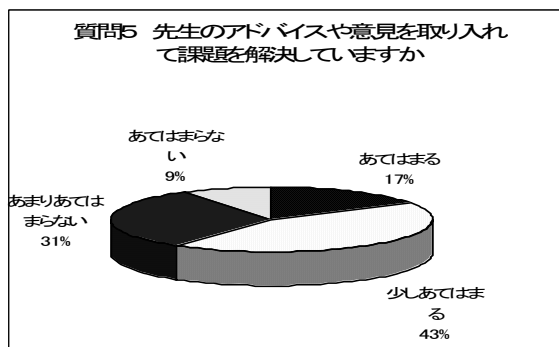
(イ) 課題解決に関する意識調査 (質問4、質問5、質問6)

質問4、5、6では、授業において友達のアドバイスや意見を取り入れて課題を解決しているのは15%、先生のアドバイスや意見を取り入れて課題を解決しているのは17%であったが、グループ学習においては26%の生徒が仲間と協力して課題を解決しようとしていた。



グループ学習においては26%の生徒が仲間と協力して課題を解決しようとしていた。

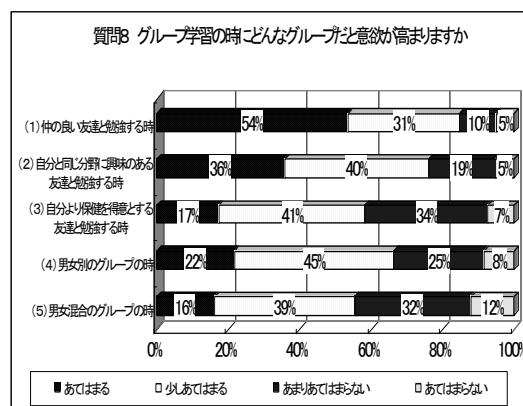
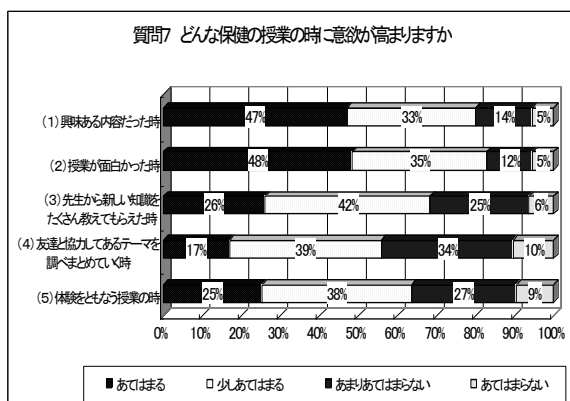
グループ学習の形態をとることで、仲間と協力しやすくなると考えられる。グループ学習ではアドバイスや意見をやりとりする機会が増えるため、グループ学習を有効に行う授業の工夫は大切であると考えられる。



(ウ) 意欲に関する意識調査 (質問7、質問8)

生徒は面白い授業、興味のある分野の授業には意欲的に参加しており、新しい知識を得ることに対して積極的である。また、生徒は仲間と協力しての調べ学習に対しては保健分科会が推測していたよりも消極的であり、友達と協力することが苦手な生徒の実態がうかがえる。

「仲のよい友達」「自分と同じ分野に興味のある友達」と学習すると意欲が高まるという結果は保健部会でも推測していたとおりであった。生徒がどんなグループでも、意欲的に参加できるような授業の工夫をすることが課題になると考えられる。



(エ) まとめ

上記のようなアンケートの結果や考察から保健分科会では、「保健の知識の必要性を感じているが実践できない生徒が多い」「他者のアドバイスや意見を取り入れたいと思っているが、仲間と協力して調べるような授業は苦手である」「グループ学習の方が他者のアドバイスや意見を取り入れやすい」「意欲が仲間や内容に左右される」ということが分かった。

保健部会では、課題解決、他者とのかかわり、意欲に着目した授業をしたいと考えた。生徒が意欲的に授業に参加するためには個に応じた適切な課題設定が必要であるが、授業において教師が生徒一人一人に適切な課題を設定するのは困難である。そこで、生徒が他者とのかかわりを通して、相互理解・自己理解を深める中で、適切な課題を設定し、課題解決できるような工夫をした実証授業を行い仮説について検証していきたい。

エ 実証授業

(ア) 実証授業のねらい

事前アンケートの結果、「他者のアドバイスや意見を取り入れたいと思っているが、仲間と協力して調べるような授業は苦手」、「保健の知識の必要性を感じているが実践できない」という生徒が多いことがわかった。そこで、グループ学習で生徒同士が積極的にかかわる場面を多く設定し、自分だけでなく相手の課題について考え、相手の課題の解決方法を仲間と共に調査し、自ら意欲的に実践できる授業を目指した。

この実証授業を行うことによって次のような効果を期待した。

- ① 生徒は、相手の課題を共に考え自分と比較することで、様々な課題があることを理解し、自分に合った課題を選択することができる。
 - ② 生徒は、調べ学習の目的が自分が知識を身に付けるためだけでなく、相手の課題解決のために必要な調査であることから、意欲的に取り組むことができる。
 - ③ 一人では妥協してしまう課題の実践も、仲間と共に取り組むことで達成できる。
- 以上のことから、生徒が自分に合った課題を発見し、自ら実践する力の育成をねらいとし、研究主題に沿って計画、実施した。

(イ) 実証授業内容

- ① 都立高等学校 4 校、第 2 学年を対象に学習单元「現代社会と健康」をとりあげ、3 時間の授業を計画し、実施した。
- ② 生徒は 3 段階のカードを使用し、全ての場面で生徒同士がかかわることを重視した。

カード 1 : 問診カード	(健康課題を発見する)
カード 2 : 説得カード	(健康課題を設定する)
カード 3 : 実践プログラム表	(健康課題を実践する)

- ③ グループ編成は 2 人対 2 人を基本とした。
- ④ 教師は適切な支援を行う。

(ウ) 生徒の学習行動と教師の支援

① 問診カード

相手に対して 10 問の質問事項を作成する。互いに質問、回答を繰り返し、相手は普段どのような生活習慣か、改善すべき行動は何かを導き出す。教師は、質問事項の参考となるような具体例を提示し、様々な生活行動の中から作成されるよう支援をする。生徒は、相手に合った改善すべき生活習慣（健康課題となりえるもの）を相手と話し合いながら 3 項目選択する。

② 説得カード

生徒は、問診カードで選択した相手の健康課題となりえる 3 項目に対し、「なぜその生活習慣を改善すべきか」を図書館、インターネット、教科書、自分の知識（既に学習経験がある場合）等で調査する。教師は、生徒の調査が、相手が実践しようと思える（相手を説得する）内容まで学習が深められるよう支援する。相手が納得するためには、無理のない健康課題を設定しなくてはならない。課題設定に無理があったり、納得できない内容であれば、その都度、話し合いの場面を設定する。

③ 実践プログラム表

与えられた健康課題に 1 週間取り組み、その実践結果と反省を記入する。自己評価をした後、グループ内で互いの実践プログラム表を交換し、相互評価をする。教師は、新たな健康課題を示唆しながら、今後も継続して実践していく必要性を理解させる。また、適切な相互評価になるよう支援をする。



(問診カードを使い問診中)



(説得カードを作成)

オ 実証授業計画

- 1 対象 第2学年
 2 単元 現代社会と健康
 3 目標 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためにはヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。

4. 各時間のねらいと評価規準

	ねらい	学習活動	評価規準		
			関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
1 時間目	<ul style="list-style-type: none"> 互いの問診カードを作成し、生活習慣の中で健康課題となりえるものを発見する。 	<ol style="list-style-type: none"> 事前アンケート オリエンテーション 問診カードの作成 質問（問診） 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 問診カードを作成しようとしている。 生活習慣を振り返ろうとしている。 質問に答えることで自己の課題を発見しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の健康課題を発見できる質問項目を見付けている。 	
2 時間目	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のための説得カードを作成する。 他者とのかかわりを通じて、個に応じた健康課題を設定する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 時間目の復習 説得カードを作成する 互いの健康課題について、意見の交換をする 実践プログラムの決定 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の健康課題について解決方法を調べたり、理論的に説得しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の健康について考えることができる。 課題を解決するための適切な方法を見付けている。 個に応じた健康課題を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康課題の解決方法の具体例を挙げている。
3 時間目	<ul style="list-style-type: none"> 実践プログラム表で1週間を振り返る。 実践結果について評価する。 他者の評価により今後の生活に役立てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 実践結果の評価 相互評価 まとめ 事後アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた実践課題を実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者、自己の実践について正しい評価ができています。 	

カ ワークシート（記入例）

(ア) 問診カード

問診カード

現代社会と健康について相手の健康課題を発見できる質問項目を作成し、相手に質問する。

ヒント	食事・運動・睡眠・入浴・喫煙・飲酒・医薬品・感染症・ストレス		
------------	--------------------------------	--	--

ヒントを参考に、質問者が具体的な10項目の質問を考える。

質問内容	回答者①	回答者②
1. 1日の中で30分以上、運動を行っていますか。	×	×
2. ストレスを感じていますか。	○	×
3. 1日、7~8時間睡眠をとっていますか。	○	×
4. 毎日、バランスの良い食事をとっていますか(3回)。	×	○
5. 毎日外出後手洗い・うがいをしていますか。	×	×

(イ) 説得カード

説得カード

説得者	説得者	挑戦者
-----	-----	-----

問診カードを参考に、健康課題を設定する。

健康課題A	<p>バランスの良い食事を3食とる。</p> <p>若い人で朝食を食べない人が、多くなっています。朝食を食べないと、身体活動のエネルギー源である血糖が不足して低体温となり、神経の働きや活動力が低下します。そのため、集中力を欠き、午前中をぼんやりと過ごすことが多くなります。また、朝食ぬきの習慣は、夜ふけ、夜食、朝ねぼろなどの不規則な生活が原因であることが多く、心身の健康を損なうこととなります。</p> <p>1日3食を基本に規則正しくバランスの良い食事をとることが大切です。</p> <p>★できるだけ多くの食品からバランス良く 炭水化物・脂質・たんぱく質の摂取の割合は、それぞれ、50%・25%・15%が望ましい。</p>
--------------	---

(ウ) 実践プログラム表

実践プログラム表								
健康課題	実践記録							
	月日・チェック (できた○、できなかった×)・反省							
	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	
プログラムA								
バランスのよい食事を3食とる。	×	○	×	×	○	○	○	B
二日の反省	朝寝坊を としまし 朝食を抜 いた。	バランスの よい食事を 3食とる E。	朝食と 昼食を 一緒にし たE。	朝食 昼食を 一緒にし たE。	脂質とたん 白質の バランス を考えた E。	バランスの よい食事を 3食とる E。	偏食をしな い。バランス を考えながら 食事をとる E。	
プログラムB								
1日30分以上の運動を行う。				○				A
二日の反省	30分 散歩を 行			30分 散歩を 行E。				
自己評価	「バランスのよい食事を3食とる」では朝寝坊をしまし2食の日が 3日もあった。寝坊しないように気を付けた。 「運動」は時間を作り30分散歩を行いよくがんばった。							
説得者より	全体的によくがんばったと思います。朝寝坊をしないので、(っか)3 回食事にする習慣を身に付けましょう							

説得者が挑戦者の実践記録を見て、よくがんばったA・がんばったB・もう少しがんばろうCで評価する。

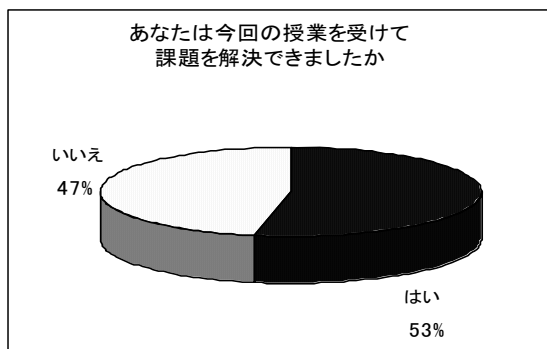
自分の健康課題を記入し、1週間実践する。

課題を実践できたか、できなかったかを○×で記入する。

キ 実証授業の分析・考察

今回の研究においては、生徒同士が「ワークシート」でのかかわりの中で互いの健康について考え、個々に応じた健康課題を発見し解決するという実証授業を行った。実証授業によって生徒の意識がどう変化したかをみるために、授業後にアンケートを行って分析、考察の参考とした。

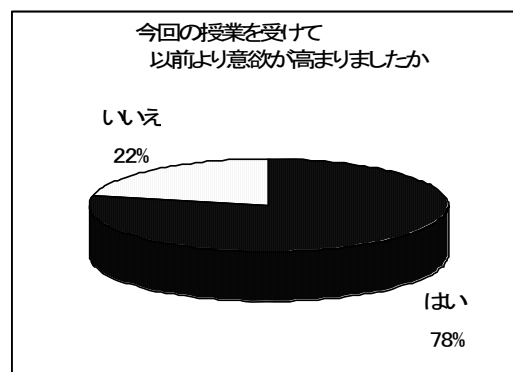
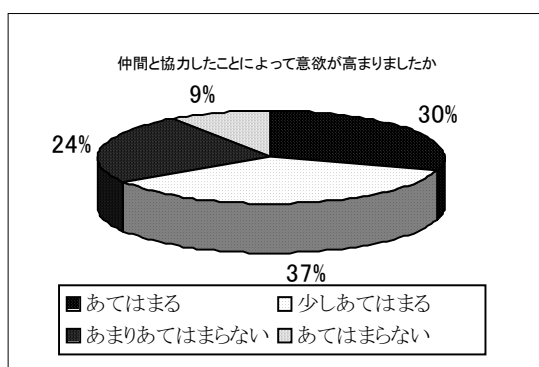
「問診カード」を作成し相手に問診するときには、生徒が自分自身と相手の生活習慣を比較



し、意見交換する場面が見られた。生徒の感想からは「自分の身体についても、まわりの人の身体についてもよく考えるようになった」という声が聞かれ、自己理解、相互理解の場面になっていた。「説得カード」の作成の場面では、教科書、書籍、インターネット等を活用し、相手の納得できるものを作成しようと意欲的に取り組んでおり、作成の過程で互いの課題設定、解

決方法についての意見交換も見られた。生徒からは「自分で調べることによって知識も増えたい意欲が高まった」「知らないことがたくさんあって興味がわいた」という声が多数聞かれた。「実践プログラム表」による一週間の実践では、「改めて自分を観察するよい機会になった」「他人に自分の課題を見付けてもらうことによって、自分の課題を意識し改善に努めることができた」「みんなでやっていることもあって、頑張らなくてはと思った」という意見が聞かれ、生徒は一人で課題に取り組むよりも効果があがると感じたようであった。一方「今回の授業を受けて課題を解決できましたか」という質問では、解決できたと答えた生徒は53%であり、「習慣を変えるのは難しかった」という生徒の意見も聞かれ、改めて習慣を変えることの難しさに気付いたようであった。今回の実践プログラムは1週間の実践で終了したこともあり、課題解決できたと答えた生徒は半数にとどまったが、これを繰り返すことで、さらに個に応じた適切な課題の設定が可能になり、生徒の意欲がより向上し、知識を実践に結び付ける能力も高まると考える。

全体を通してみると、仲間とかかわり、協力して、課題の発見、設定、解決に取り組むアプローチとしては効果があったと判断する。実践を終えての相互評価の場面では、実践の感想や評価を意見交換することで、生徒は、個人の生活習慣、課題、解決方法がそれぞれ違うことに、改めて気付いたようであった。



授業後に実施した「あなたは仲間と協力したとによって意欲が高まりましたか」の質問では、4：あてはまる（30%）3：少しあてはまる（37%）という結果であり、約7割の生徒が、仲間と協力したことによって意欲が高まったと感じていた。また、生徒からは「仲間と協力したことがよかった」「親睦が深まった」「相手のグループと話し合うことができてよかった」「他人への思いやりや大切さがわかった」という意見があった。事前の意識調査では「仲間と協力してテーマを調べまとめていくとき」に意欲が高まると思っている生徒は4：あてはまる（17%）3：少しあてはまる（39%）2：あまりあてはまらない（34%）1：あてはまらない（10%）であった。この結果からみても今回の授業が仲間とのかかわりの場面を作ることで、学習しやすい環境を作り、意欲の向上につながったのではないかと考えられる。

さらに「今回の授業を受けて以前より意欲が高まりましたか」の質問では、78%の生徒が高まったと答えおり、「自分の健康を気にしてもらえるのはうれしいものです」「自分の課題以外のことにも興味をもてました」という意見も聞かれた。

ク まとめ

今回の研究は、「生徒同士のかかわりを通して、一人一人の意欲を高める個に応じた学習指導の工夫」を主題として行った。生徒の健康や運動への興味・関心、ライフスタイルの多様化に伴い個々に応じた課題が必要であること、また、生徒同士が多くのかかわりをもつことによって豊かな人間性・社会性を育成することができる。こういった取組みを行うことが、意欲を高めることにつながると考え、研究主題とし実証授業を行った。

①互いの日々の生活における健康問題を考える（問診カードの作成）→②健康課題の発見・設定（説得カードの作成）→③課題解決への実践（実践プログラム表の作成）→④互いの評価という一連の学習作業を通じて生徒は多くのかかわりを持ち、その過程で自分の生活習慣を改めて見直すことができたようである。よって、個に応じた課題が明確になり、解決のためのより具体的なプログラムを実践することで意欲が高まったと考える。一斉授業では行いにくい、自分にあった課題を互いに発見・設定するという学習活動は、個々の目的意識を芽生えさせるのに大変有効であった。それが、より身近で個に応じた健康課題の解決へとつながり、意欲的な取組みになった要因であると思われる。事後アンケートにも「みんながまじめに取り組んでいる姿をみて、やる気が出た」・「自分の健康について改めて考えることができた」などの回答も多くみられ、それぞれが意欲的に授業に臨んだ様子がうかがえる結果となった。また、「友達との話し合いが楽しかった」などの回答もあり、テーマである「かかわり」と「一人一人の意欲を高める」という点においては一定の成果が得られた。

改めて、生徒同士のかかわりを通しての課題解決、学習意欲の向上に着目し取り組んできた本研究は全体を通じて成果を得ることができたと言える。特に「かかわり」が能動的に出てくる場面を多く提供することで、生徒同士が積極的にふれあうことができた。そしてその活動の中で多くの生徒が自分と他者について分析し、自己の健康課題を再確認することができた。以上のことから、自分にあった課題を発見・設定することが課題解決への意欲を高めることにつながり、学習に対する活動も積極的になるということがわかった。これが、本研究の最大の成果であったと考える。今後は、年間を通じて生徒が課題解決への実践に取り組むことができる環境を体育や他教科と連携しながら整備することや、それに伴う実践プログラム表の内容などを改善・検討することで、より一層の授業の充実が図ることができると考える。

Ⅲ. 研究成果と今後の課題

1 研究成果

本研究では「生徒同士のかかわりにおける相互理解を通して、個に応じた適切な課題を設定することにより、生徒は意欲的に課題を解決することができるようになる」という仮説を立て研究を進めてきた。授業における生徒同士のかかわりを促進するために体育分科会では「評価シート」、保健分科会では「問診カード」等のワークシートを開発し、個に応じた学習活動の工夫や一人一人の学習意欲を高めるために活用した。その結果、次のようなことが明らかになった。

- ① 生徒がかかわりを通して個に応じた課題を発見できた。
- ② 競い合いや話し合いの場面を設定することで、より生徒同士のかかわりが活性化し、課題解決への意欲が高まった。
- ③ 生徒が互いにかかわりを深めるなかで、一体感が生まれ授業に活気がでてきた。
- ④ 競技経験や生活習慣など個に応じたかかわり方の違いを互いに理解し、尊重し合うようになった。
- ⑤ 互いの運動や健康について、考えたり話し合うことで個に応じた課題を発見し、解決に向けて自らすすんで取り組むことができた。

以上の結果から仮説に対して次のような結論が導き出せると考える。

- ・学習活動に多くのかかわり合いの場面を設定することで、生徒が自己の課題を発見するとともに、生徒同士がお互いの課題に共通理解をもつことができた。
- ・教師が支援の工夫をすることにより、生徒が仲間と協力して学習活動に取り組むなかで相互理解が深まった。また、個に応じた課題の発見・設定により、意欲的に課題を解決するようになった。

2 今後の課題

- (1) 個に応じた課題設定が明確でない生徒への支援
 - ア 生徒一人一人が個に応じた課題を設定できる学習内容の工夫
 - イ かかわりの機会が少ない生徒への指導の工夫
- (2) 考える・工夫する場、時間の保証
 - ア 授業開始時における目標や課題の確認
 - イ 練習方法やアドバイスを考える時間の確保
 - ウ 意欲的に取り組むための環境づくり
- (3) 評価方法の検討、改善
 - ア 相手がわかりやすいアドバイスを記入させる評価シートの工夫
 - イ 適切な個人内評価の方法

平成17年度 教育研究員名簿（高等学校保健体育）

	地 区	学 校 名	氏 名
体育分科会	第 二 地 区	世 田 谷 泉 高 等 学 校	長 井 正 徳
	第 四 地 区	向 丘 高 等 学 校	○ 小 沼 克 己
	第 四 地 区	北 豊 島 工 業 高 等 学 校	◎ 小 窪 昇
	第 六 地 区	葛 西 工 業 高 等 学 校	平 原 勇 次
	第 十 三 地 区	八 丈 高 等 学 校	関 根 隆
保健分科会	第 一 地 区	一 橋 高 等 学 校	大 村 賢 治
	第 四 地 区	文 京 高 等 学 校	平 木 直
	第 四 地 区	飛 鳥 高 等 学 校	鈴 木 恵
	第 六 地 区	南 葛 飾 高 等 学 校	○ 征 矢 範 子

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 関 伸夫
指導主事 平田 誠一

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷